



人間科学部 人間科学科

相原 正道(あいはら まさみち) 教授

日本で唯一 2016&2020東京オリンピック・
パラリンピック招致活動を経験した研究者
文部科学大臣表彰受賞者

■ スポーツ教育やスポーツマネジメントを専門とし、行政のさまざまな有識者会議の委員を務める。

相原正道教授は、スポーツ教育やスポーツマネジメント、スポーツビジネスが専門。2016と2020の2度の東京オリンピック・パラリンピック招致活動を経験しています。東京五輪・パラリンピックを巡る汚職や談合事件については、世界的な基準におけるガバナンスの欠如であると指摘しています。

さらに、大阪市教育委員会「大阪市立学校における部活動のあり方に関する有識者会議」や「大阪市スポーツ振興施策検討有識者会議」座長として中長期戦略策定など行政のさまざまな有識者会議・審議会の委員を歴任しています。こうした経験を生かし、五輪のほかにもスポーツを巡る幅広いテーマについて論じてきました。テーマとしては、スポーツマンシップ、体罰、アンチドーピング、メンタル、トップアスリート育成、ツーリズム、ビッグデータ、障がい者、メディア、地域スポーツ、アーバンスポーツなどが挙げられます

■ スタジアム・アリーナなどのスポーツ施設を中心とした都市のデジタル化と街づくり。

東京オリンピックパラリンピックという世界的なスポーツイベントの開催後、スポーツ庁の活動やJリーグ・Bリーグの方針などもあり、国内のスタジアム・アリーナ整備が着実に進んでいます。従来「いかに良いスタジアム・アリーナをつくれるか」という建設フェーズが重視されてきましたが、現在は「どうスタジアム・アリーナで収益をあげて、地域に貢献するか」という運営重視型へ移行しています。5G時代が到来し、高速で大容量なビックデータが出現した今、目指すべき「都市×デジタルの姿」として、都市の基盤および環境整備、地元企業の新規ビジネス創出、最終的には、地元企業の雇用拡大、観光客増加、地域の知名度・魅力向上につなげていくべきです。キーワードとしては、これまでの取組みとの親和性と市場性から観光・交通・スポーツ・健康・教育を検討していかなければなりません。

■ 人気高まる「アーバンスポーツ」を研究対象に。NHKBS1の「スポヂカラ！」にもゲスト出演。

相原教授は近年、スケートボードや自転車競技のBMX、スポーツライミング、ダンスなどの「アーバンスポーツ」に関心を持ち、ビジネスとしての体系化や価値の発見に取り組んでいます。アーバンスポーツを扱ったNHK BS1のスポーツ番組「スポヂカラ！」(MC・田村淳)にもゲスト出演しました。

アーバンスポーツに若者の人気が集まる理由について、相原教授は「コーチに教わるのではなく、みんなYouTubeを見て練習する。強制されないし、クールでかっこいい。そこが魅力だろう」と話し、「アーバンスポーツでは、公園を使うルールをみんなで作り、守らなくてはならない。そこに教育的価値があり、経済価値が生まれる」と説明しています。

相原正道教授 プロフィール

詳細はこちら⇒<https://web.j8.osaka-ue.ac.jp/ouehp/KgApp?resId=S000165>

1971年生まれ、東京都出身。筑波大学大学院スポーツ健康システム・マネジメント専攻修了。

職歴：電通パブリックリレーションズや東京ヤクルトスワローズF-PROJECTメンバーを経て、2015年に本学准教授に就任。2017年から現職。2016東京オリンピック・パラリンピック招致委員会事業部門マネジャー、2020東京オリンピック・パラリンピック招致エグゼクティブ・プロデューサーを歴任したほか、大阪市教育委員会「大阪市立学校における部活動のあり方に関する有識者会議」や「大阪市スポーツ振興施策検討有識者会議座長」、「大阪府日本万国博覧会記念公園運営審議会」などの委員を務める。2021年4月、文部科学大臣表彰 科学技術分野 理解増進部門受賞。

主な著書：『スポーツマーケティング入門』（共著、2019）、『現代スポーツのエッセンス』（単著、2016）

所属学会：日本体育・スポーツ・健康学会、日本スポーツ産業学会、日本スポーツマネジメント学会、日本広報学会など

<本件に関するお問い合わせ先>

大阪経済大学 企画部広報課 高濱、東 Tel: 06-6328-2431 Mail: kouhou@osaka-ue.ac.jp

大阪経済大学 広報デスク(プランニング・ボート内) 福嶋、井上 Tel: 06-4391-7156

<https://www.osaka-ue.ac.jp>